

「教育格差なくす」25歳奮闘

学生のボランティア講師派遣

家庭の経済事情による教育格差をなくしたいと、福岡市在住で九州大出身の森山香さん(25)が、学生らをボランティア講師として福祉施設などに派遣する活動を進めている。大学在学中の2011年、全国規模のNPOの九州事業部を発足させ、これまで延べ約150人の子供の学習支援に取り組んだ。森山さんは「一人でも多くの子供の可能性を広げる手助けをしたい」と意欲を燃やしている。

(村方和樹)



学生と打ち合わせをする森山さん(福岡市中央区の事務所で)＝貞末ヒトミ撮影

「この子は文章を読むのが苦手。どう教えようか」9月下旬、福岡市中央区にあるNPO法人「ティーチ・フォー・ジャパン」の九州事業部事務所で、森山さんは講師の学生2人と打ち合わせをしていた。同法人は、貧しい地域に若者を講師として派遣する米国のNPOをモデルに10年に設立。企業や団体の寄付で運営している。

九州事業部には、福岡県

内の学生ら約30人が登録。昨秋からは、福岡市の委託を受け、母子家庭などの家庭環境や経済事情から、家事の手伝いなどに追われ、学習が遅れがちになっている小中学生を対象に、週1度、公民館などで学習指導や生活相談を行っている。活動の原点は九州大法学部の4年生だった約3年前。半年間休学し、独自の教育改革で知られる島根県

の離島・海士町で就業体験をした。町営塾で中学3年生6人の受験対策を担当した際、大きなショックを受けた。小学校で学ぶ計算が出来ず、「自分はバカだから」と諦めていた生徒。「どうせ無理でしょ」と無関心な親。「教育に無関心な環境が、子供の可能性の芽を摘んでいる」と感じ、徹底して教えると、生徒の目の色

NPOの九州支部 設立2年 150人支援

は変わった。翌春、全員が志望校に合格した。同じ頃、同法人の活動を知った。東京にあるNPOの本部に押しかけ、松田介代表(30)に思いをぶつくと、「九州でやってみようか」と勧められ、大学在学後の11年7月、九州事業部設立にこぎ着けた。松田代表は「熱意と行動力があり、心強かった」と振り返る。

大学卒業後は九州で一人の専従職員として場を駆け回り、様々な子と出会った。家事やきよだいの世話に疲れ果て子、昼ご飯すら満足に食べられない子……。教育環境を取り巻く課題や悩みは尽きないが、学習を通じて表情が生き生きと変わっていく子供たちの姿を見るのが、何よりうれしい。

講師を務める学生も貴重な経験を積んでいる。教員を目指す九州大理学部4年の副島達彦さん(25)は「一人ひとりときちんと向き合うことがいかに大切か実感できた」と話す。

森山さんは、「情熱のある優秀な学生講師を増やし、子供たちの教育環境を変えていきたい」と、活動拡大を目指し、動き続けている。